

本当に安全は確保されるのか！ 会社は労使協議を真摯に取り組め！

名古屋地本は、2月21日・23日、紀勢本線において列車が倒木に衝撃する事故が発生したことに対する申し入れを、3月9日に安全問題として申し入れをしました。4月17日、申し入れに対する窓口回答がありました。

【申し入れと会社回答】

紀勢線倒木との衝突による列車運休に対する申し入れ

2017年2月21日午前5時10分頃、紀勢線多気～徳和駅間で900Cが線路上に倒れていた木と衝突した。また、2月23日午後6時10分頃には紀勢線九鬼～大曾根浦駅間で3008Dが異音感知により停車した。いずれの列車も前途運転休止となっている。幸いにも列車脱線は免れたが、一歩間違えれば大事故になると認識する。

このような事故の再発を防止するために原因究明と今後の対策が求められる。下記のとおり申し入れるので、緊急に業務委員会を開催し誠意ある回答をすること。

記

1. それぞれの発生原因を明らかにすること。

【回答】2月21日900C 線路内にあった木と衝撃したため

2月23日3008D 線路内にあった枯木と衝撃したため

2. 発生から正常運行に至るまでの経過時間、影響人員、列車遅延状況、運休本数および旅客の被害を明らかにすること。

【回答】900C 時間、5時09分頃線路内にあった木と衝撃したため停車。木を撤去し車両・線路の安全確認を行い5時52分に運転再開した。

影響人員 約30名

列車遅延 上下計2本 下り1本 上り1本 33分～25分

運休本数 部分運休 上り1本

旅客被害 なし

3008D 時間18時10分頃、運転士が異音を感知したため停車。車両・及び線路等の安全確認を行い20時08分に運転を再開した。

影響人員 約110名

列車遅延 上下計4本 下り2本 上り2本 149分～11分

運休本数 部分運休 上り1本

旅客被害 なし

3. 衝撃した車両状態を明らかにすること。

【回答】一部の床下機器が衝撃により破損したが、安全上問題なく確実に停止し、また、処置を実施後自力走行で車両区に入区し必要な修繕を実施した。

4. 線路点検の基準・周期を明らかにすること。

【回答】線区毎に一定の周期を定め適切に実施している。

5. 倒木に対する今後の対策を明らかにすること。

【回答】倒れたら線路を支障するような用地外の管理不十分な樹木に対し、危険度の高い物から優先順位を付け順次伐採をしている。

【やりとり】

組合:幹事間での回答は認めない。業務委員会を開催すべきだ。

会社:申し入れ内容を検討したが、業務委員会を開催せず幹事間での回答で充分と判断した。

組合:以前は、落石等の安全問題は業務委員会を開催してきた。

会社:以前の事は承知していない。今回の申し入れ内容は窓口回答とする。

組合:窓口回答では議論できない。

会社:議論する申し入れではない。

組合:900Cの日は強風だと認識するが、3008Dの日は強風ではなかった。

会社:枯木が飛んできたと思われる。

組合:新聞報道によると木の直径は20センチとある。飛んでくる物ではない。

会社:大きい物かも知れないが、用地外の管理については地権者との兼ね合いもあり難しい。

組合:用地外からと断定しているのか。

会社:900Cの件は断定している。3008Dの件は分からない。

組合:旅客被害は、なしとしているが、旅行を取りやめた旅客は把握しているのか。

会社:旅客被害は、身体的被害をイメージしており旅行取りやめについては把握していない。

組合:車両では、変速機オイルが抜けたと聞いている。線路も油漏れの痕跡が相当あった。

会社:回答したとおり、適切な対応はしている。

組合:たびたび発生するのは問題である。落石防止のように柵の設置等考えないのか。

会社:必要な対策はしている。

組合:回答を受けて議論することが多々ある。窓口だけでは議論が尽くせない。回答は聞いたが業務委員会を開催しないことには納得はできない。先日の経営協議会での事業計画の最後に安定的、協調的かつ建設的な労使関係の充実と唱っているが、これを反故するものと考え

以上